

令和元年 8 月 26 日

報道関係各位

新宿御苑
管理事務所長
宇賀神 知則
(公印省略)

国立感染症研究所
昆虫医科学部長
葛西 真治
(公印省略)

新宿御苑におけるウイルス感染蚊駆除訓練の公開について

平素より感染症行政の推進につきましてご協力いただき、誠にありがとうございます。

来年に東京オリンピック・パラリンピックを控え、国立感染症研究所昆虫医科学部では、令和元年および令和2年に新宿御苑内で採集されたヤブカについて、デングウイルス、チクングニアウイルス、ジカウイルスの保有検査を行います。また、東京都では都内25の緑地公園で採集された蚊からのウイルス検査を継続的に行っております。

今般、新宿御苑内で採集された蚊から、上記病原ウイルスが検出されたことを想定して、別添のとおり9月2日に同苑内で感染蚊駆除の模擬訓練を行うこととなりました。

訓練はオリ・パラリンピック開催に向けた感染症対策の一環として行われます。訓練は新宿御苑閉園日に行い、敷地内の一部で実際に殺虫剤を散布してヒトスジシマカの駆除効果を評価いたします。

なお、取材・見学を希望される方は参加登録ウェブサイトを通じて事前登録していただけますよう、よろしくお願い申し上げます (<https://forms.gle/o4x63hF1PjeTGyhn6>)。

別添

令和元年 8 月 9 日

デング熱等蚊媒介性感染症の発生を想定した訓練の実施について

新宿御苑は平成 26 年 9 月にデングウイルス保有蚊の確認に伴う閉園を経験しています。2020 年に東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、デング熱等蚊媒介性感染症発生時の関係機関の迅速で円滑な対応を目指して、新宿御苑における訓練を以下の要領で実施いたします。

1. 目的

- (1) 蚊媒介性感染症発生時に感染拡大を防ぐためにそれぞれの立場で適切に対応し、関連部署間で綿密かつ円滑に連携できるようシミュレーションしておく事
- (2) いつ蚊媒介感染症が流行しても対応できる準備を整えていることを国民に広く知ってもらうこと
- (3) 万が一緊急事態が発生した場合に、それに備えて十分な準備をしてきたことを国民に伝え、少しでも安心感を与えられる環境を作っておくこと
- (4) 感染蚊駆除の現場を公開し、地方自治体の関連部署の方々に、緊急時への備えの参考にしていただくこと

2. 実施概要

<開催日> 令和元年 9 月 2 日 (月) (雨天時は 9 月 9 日 (月))

<場所> 新宿御苑内 (閉園日)

<関連機関> 新宿区保健所、渋谷区保健所、東京都福祉保健局、東京都健康安全研究センター、東京都ペストコントロール協会、日本環境衛生センター、日本ペストコントロール協会、日本防疫殺虫剤協会、日本有害生物研究会、新宿御苑管理事務所、国立感染症研究所昆虫医科学部、環境省、厚生労働省

<訓練内容とタイムテーブル>

- ①関係機関における連絡訓練 (新宿御苑管理事務所、国立感染症研究所昆虫医科学部、新宿区保健所、渋谷区保健所、東京都福祉保健局、東京都健康安全研究センター、日本環境衛生センター、東京都ペストコントロール協会、日本防疫殺虫剤協会) 前日～当日にかけて
- ②蚊駆除エリア選定のための密度調査 (国立感染症研究所、日本環境衛生センター、東京都健康安全研究センター) 8 時頃～
- ③新宿御苑内 (一部) で殺虫剤 (ULV, 動力噴霧, 炭酸ガス製剤) による蚊成虫駆除作業 (東

京都ペストコントロール協会) 9 時頃～

③殺虫剤散布による蚊の駆除効果確認 (国立感染症研究所, 日本環境衛生センター, 東京都健康安全研究センター) 10 時頃～

④訓練の総括 (駆除前後の捕集蚊数の発表など)

⑤報道対応

※訓練の内容は報道関係各社に公開し、国内外の利用者に媒介蚊対策の重要性について広く知っていただけるよう、広報していただくことを期待しています。

3. 留意事項

- 訓練の実施、報道各社への公開に当たっては、利用者に新宿御苑がデング熱等発生リスクの高い場所であるような風評が起きないように留意する。
- 新宿御苑を訓練場所とする主たる理由は、閉園日があり訓練を実施しやすいこと、(過去にデング熱ウイルスを保有する蚊が確認されたことを踏まえ)積極的に幼虫の発生予防と対策が進められていること、知名度が高く訓練に係る情報発信の効果が高いことなどによる。
- 今回の訓練では数種類の散布法および殺虫剤を用いる予定だが、これは緊急時の散布法を推奨するものではない。すべての散布法には長所と短所があるため、駆除対象となる場所の状況に合わせて、適宜最適な方法を選択する必要がある。
- 人おとり法の実施および薬剤散布については、実施者本人がウイルス感染のリスクを十分に理解した上で行う。皮膚露出を極力抑え、忌避剤を十分に使用する。また、実施前後の体温変化に留意し、健康管理に努めることとする。

主催

新宿御苑管理事務所

国立感染症研究所

訓練企画および事務局

国立感染症研究所昆虫医科学部

代表 葛西真治 (部長)

電話 03-5285-1111 (内 2400)

kasacin@nih.go.jp

その他

ペストコントロールとは

生活空間を衛生的かつ快適に保持するために、ねずみや害虫など人にとって有害な生物を防除したり駆除することをペストコントロールと言います。これを目的として活動する職場で働く人々はペストコントロールオペレーター（PCO）と称されます。

東京都には、公益社団法人として東京都ペストコントロール協会があります。2014年にデング熱が流行した際にはこの協会を通じてペストコントロールオペレーターを派遣していただき、感染蚊の駆除を行っていただきました。すべての都道府県にはペストコントロール協会があり、47都道府県協会とその他会員から日本ペストコントロール協会が構成されています。

蚊からのウイルス検出に関する考え方

非流行時（平時）に蚊からデング熱やチクングニア熱の病原ウイルスが検出される確率は非常に低いと考えられるため、通常は蚊からの検出よりも患者が発生する方が早くなると言われています。しかし、東京都の一部の公園の場合、緑地内に長時間滞在したり、頻回利用する人々が、多くの感染蚊を作り出すことがあり、このような条件が整った時、蚊（ヒトスジシマカ）から比較的高確率でウイルスが検出される場合があります。そのため東京都健康安全研究センターと国立感染症研究所では、都内の都立公園や新宿御苑から定期的に採集されたヒトスジシマカについて、病原ウイルスの検出作業を行っています。また、緊急時には基本的に感染蚊の駆除を優先させるため、蚊からのウイルス検出は必須ではありません。しかし、現場の蚊からのウイルス性情解析が感染症流行の疫学的な解明に役立つことはあります。

訓練の要点

新宿御苑で採集された蚊からデングウイルスが検出されたことを想定した感染蚊駆除訓練を行います。新宿御苑管理事務所のご協力のもと、国立感染症研究所昆虫医科学部が企画して行うものです。

検査の結果、ヒトスジシマカからウイルスを確認した研究機関（感染研や東京都健康安全研究センターなど）から関係機関への連絡系統の確認と、感染蚊発生場所（新宿御苑や一般住宅地、都立または区営公園など）における感染蚊駆除までの一連の動きの練習となります。

殺虫剤散布は新宿御苑の一部の区画（約 7000m²）を利用し、3つの散布法（噴霧、ULV、炭酸ガス製剤）を用いて行われます。

この訓練は、デング熱など蚊媒介感染症の患者さんが確認された場合の、感染症法に基づく媒介蚊駆除にも応用されると思われます。

2020 オリ・パラリンピックに向けての感染症対策準備の一環として行います。

訓練は新宿御苑の休園日を利用して行われます。

当日の受付を円滑に行わせていただくため、見学を希望される方は参加登録ウェブサイトを通じた事前登録をよろしくお願いいたします。

<https://forms.gle/o4x63hF1PjeTGyhn6>